小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3　TEL：50-1200
ホームページ　http://www.khmoan.jp/

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

市民割引券

（1枚につき、5名様まで有効）
小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

特別企画・美術講演会「工芸の魅力を語る」

日光市所蔵の版画・工芸展の開催に併せ、テレビ東京系列で放映されている「開運なんでも鑑定団」の出演でおなじみの大熊敏之氏による、工芸についての講演会を行います。

日本の美術史や工芸史などを多角的に研究されている大熊氏から、工芸の魅力についての話が聞けるまたとない機会です。ぜひご参加ください。

島岡達三作「窯変縄文象嵌壺」
日光市所蔵

と　　き：9月18日（土）　午後2時～3時30分
講　　師：大熊敏之氏（富山大学准教授・さいたま市立大宮盆栽美術館館長）
参 加 料：入館料のみで参加できます。
参加方法：当日午後1時50分までに、美術館受付前にお集まりください。

❖展覧会「一体感醸成事業　日光市所蔵の版画・工芸」
会　　期：9月18日（土）～10月17日（日）
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入 館 料：一般…700（300）円、大学・高校生…500（200）円、小中学生…無料　※（　）内は市民割引券を利用した際の料金です。

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1（今市図書館隣）☎(22)6217
開館時間　午前9時～午後6時（入館無料）
休館日　毎週月曜日、祝日

◇常設展示資料紹介②
二宮尊徳等身像（模型）

二宮尊徳は、現在の神奈川県小田原市で生まれ、北関東の農村の復興に力を尽くし、安政3（1856）年に今市で70歳の生涯を終えました。その身長は六尺余（180㎝以上）もあったといわれ、江戸時代の男性の平均身長が155㎝ほどであったことを考えると、当時としては相当な巨漢であったといえます。腕力も強く、声も雷のようであったと伝えられ、恵まれた体格を生かして、精力的に村々の巡回や村人への指導に当たっていたのではないでしょうか。皆さんも当館で尊徳の体の大きさを実感してみませんか。

二宮尊徳等身像（模型）。

◇常設展示資料紹介③
森豊氏関係資料

森豊氏は明治40（1907）年に長崎県佐世保市で生まれ、昭和2（1927）年に県立今市中学校教諭となり、この地に移り住みました。平成6年に亡くなるまで、栃木県社会教育委員、今市市文化財保護審議委員などを務め、地域の文化の向上に多大な業績を残しました。また、二宮尊徳の研究家としても知られています。

❖催し❖

◆今市史談会会員研究発表会
9月11日（土）午後1時30分～3時30分　※会場は今市図書館
◆企画展「びっくり昆虫展」
9月12日（日）まで

休館のお知らせ

くん蒸（収蔵資料を虫やカビから守るための消毒）と展示替えのため、9月13日（月）～10月1日（金）が休館となります。

日光市の文化財 ㊴

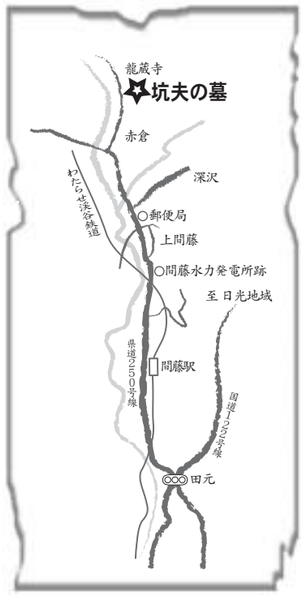
坑夫の墓

【種別】有形文化財
【所在】日光市足尾町赤倉
平成元年12月8日旧足尾町指定

今回は、足尾町赤倉の龍蔵寺にある坑夫の墓を紹介します。龍蔵寺には坑夫の墓が多くあり、それらの中で代表的な共同供養塔など3基が坑夫の墓として市指定文化財に指定されています。

坑夫にとって坑内の作業は、けい肺病の危険のほか、多くの厳しさがありました。そのため、坑夫間の結びつきは非常に強いものがあり、友子制度という親分子分の関係が形成されていました。この制度により、子分が親分から坑内の仕事を学んだり、共同で親分の墓をたてたりしました。また、足尾銅山では、傷病者に対して現金による補助などがあり、坑夫にとって重要な制度でした。

龍蔵寺の坑夫の墓には親分子分それぞれの出身地と氏名を刻んだ墓が多く、刻まれた年齢の若さからは、労働の厳しさが伺えます。足尾には多くの産業遺産がありますが、今回の文化財は鉱山で働いた人々の生活の一端を知るための貴重なものです。



市民文芸

川柳　選者　日野原冗児

太い指生きた証を振り返る　田中　孝
気づかないふりしてくれる君といる　手塚貴子
そう言えばうちのスキヤキ豚だった　新家　守
大の字になり同化した地平線　斎藤雅裕
ふるさとに腕まくりする土がある　大橋芳明
納豆の蓋にメモある妻の旅　福田恒産
手をつなぐ左に君はもういない　野口一徳

俳句　選者　須藤火珠男

晩学の糧となる書を曝しけり　星野恒志
東屋に神水の茶を嗜めり　渡辺ミチ子
傘をさすなすピーマンにミニトマト　白土武夫
夏木立杜をそびらに雅筵かな　鈴木キヌ子
くたびれて鉢巻法被は背に眠る　福田美代子
五月雨や萎へし脚許覚束ず　徳本英子
さみだれや深き杉の香水車小屋　松本武久

短歌　選者　阿久津仲一

母逝きて一人くらした庭に佇ち還るすべなき思いにむせぶ　関根眞佐子
わが生気奪われており燃えかわす樹々の緑の饒舌のなか　名古屋佳子
「はやぶさ」とう名のつけられし多かれど戦い知る我戦闘かなし　大出喜代
亡き父の残してくれしごまだれの秘伝の効果に膳も和める　八島美伊子
憂きことを誰にか告ぐる友もなく詩に託しては一人涙す　村田登美
シルバーの運転講習二度目なり意のままならぬ高齢を嘆く　湯沢登久栄
溢れくる拍手の波よ今ここに歌い上げたる歓喜の歌は　星　恭子

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課　広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109